

# 障がい者チャレンジトレーニング（職場短期実習）事業 好事例

（支援機関）障がい者就業・生活支援センター

1. 本人プロフィール	
障がい種類・程度	精神3級（発達障がい）

2. 職場情報	
業種	介護事業

3. チャレンジトレーニングの実施			
日数	10日間	勤務時間	8時間／日
実習内容	介護補助（入浴介助・排泄介助）		
支援機関による 職場への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>「指示はゆっくり」など、現場の従業員からの指示の出し方をできるだけ具体的にするように伝えた。</li> <li>職場の担当者と相談して、本人の適性に合った仕事の切出しを行った。</li> </ul>		
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場内でいつでも相談できる担当者を固定して指示系統を一本化した。</li> <li>臨機応変な対応が難しいため、手順を示した業務マニュアルを作成した。</li> </ul>		

4. 就職後の様子	
仕事内容	介護業務（入浴介助・排泄介助）
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャレンジトレーニングから引き続き、キーパーソンを固定している。</li> <li>感情のコントロールが苦手なので、職場のキーパーソンから見て、本人が硬い表情になっていることに気付いた時は、業務内容に区切りが付いた時点でベランダ休憩を挟むなどして気持ちをクールダウンできるようにしている。</li> </ul>
支援機関による 就職後の定着支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>入社当初は、2週間に1回職場訪問し、企業、本人共に慣れてきた段階から訪問頻度を月1回に変更した。訪問時には、職場と支援機関において本人の仕事の様子を確認する。</li> <li>本人は、同時に指示を受けると困惑するため、企業側から一つ一つ指示を出しているかを訪問時に確認している。また、本人の生活面の乱れや、薬の量の変化などについても職場の担当者と本人に確認を行っている。</li> </ul>
チャレンジ トレーニング後の 職場の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャレンジトレーニング終了後、まだ臨機応変に仕事ができているとは言いが、支援機関からは、「時間はかかるが、仕事は覚えることができる」とのことだったので、今後は支援機関と定期相談を行いながら進めていく。</li> </ul>